

3. 研修報告

研 修 報 告

氏 名：伊 東 繁 丸

研究機関見学：農林水産省家畜改良センター宮崎牧場鹿児島支場

目 的：大型農業機械の利用による南九州での牧草生産技術

日 時：平成3年1月22日

見学項目：1) 大型機械の活用状況

2) 作付体系と牧草収穫貯蔵

3) 局地気象予測装置

4) 放牧地およびパドックでの管理上の工夫

研修内容：機械は大型化されてきており、所有台数も充分にある。従って、作業がスピードアップされ、計画的作業が可能である。また、転石がなく機械の破損が極めて少ない。冬季農閑期に機械の修理（部品取り替え、洗車、塗装、潤滑油充填等）が完全になされている。更に自家製の農業機械（シバハロー付鎮圧ローラー、覆土整地用ハロー、廃車利用の運搬車等）を多く製作している。格納庫が完備しているため、手入れや保管状態が良く、機械の耐用年数が非常に長い。

イタリアンとスピードエンバクの混播またはイタリアンと麦との混播による年内刈り取り貯蔵がなされている。冬季収穫では水分調節が困難なため、バンカーサイロに水抜き口を設け、高水分原料でも貯蔵できるようにしている。覆いは冬季には黒、夏季にはアルミハクのものを使い、サイレージへの気温の影響を最小限にしている。夏作はトウモロコシの2期作（1期作の場合ローズグラスを組み合わせる）が多い。トウモロコシはハーベスターでサイレージに、ローズグラスは乾草にしてロールペーラーで収穫している。品種比較試験も行われている。収量および給与量はトラックスケールで正確に測定され、労働成果が正確に評価出来ている。

気象衛星ひまわりを利用して局地気象の予測を行いつつ、牧草の作付、管理および収穫作業が進められている。局地気象予測は牧草の収穫作業で極めて重要であり、天候が作業効率および製品の品質を大きく左右するため、効率的作業を進める上で今後本学牧場でも取り入れられなければならないシステムであると考えられる。

全牛が除角されており、牛群がおとなしく、栄養状態も Body condition が3以上に維持されている。移動式乾草給餌器（廃車を利用）がパドックにおかれ乾草が牛の栄養状態に応じて給与されている。草地へ通ずる道路はほとんどオーバードライブゲイト（自家製）が設置されており、牛の脱柵防止と車両の自由な通行が同時に可能になっている。

農場の教育・研究・事業運営との関連と展望

研修で学んだことで牧場に取り入れられるものについては随時検討していきたい。特に、作付作業効率を向上させるために、覆土と鎮圧を同一行程で行える自家製のローラーについては、本年度の作付から生かせるようにしたい。また、入来牧場における機械装備レベル向上のためリース等を含め、多面的角度から検討する必要があると考えられる。